

ファンドマネージャーの眼

ファンドマネージャー独自の視点で市況を分析



『ポケモン GO への雑感』

2016年10月7日

グローバル・エクイティ運用部

夏休み中、妻の実家に訪問した時の出来事です。ポケモン GO の社会現象については、ニュースなど取り上げられていたことからすっかり理解したつもりでいたものの、まさか自分の回りでもこんなにどっぷりはまってしまっているとは思いませんでした。道中の車の中で退屈させないために軽い気持ちで3歳の子供に遊ばせたら、すぐ大いに気に入ってくれました。また、スマートフォンにデビューしたばかりの妻の両親までが70歳にもかかわらずポケモン GO で毎日遊んでいるのです。近くの公園やショッピングセンターに行っても、年配の方が遊んでいる光景を目の当りにして何度も驚いてしまいました。ポケモン GO を遊ぶためには外に出掛けなければならない、それに伴い様々な消費が付随して生じ、大きな経済効果が期待される「ポケノミクス」という言葉がこうして生まれたと実感したのです。

株式市場においてもポケモン GO が大きく注目されました。任天堂の株価は米国などで配信が始まった7月6日から7月19日までの約2週間で2倍以上に急上昇しました。その後、任天堂自身が株式会社ポケモンの持ち分利益は業績に与える影響は限定的と発表したことから、株価は7月19日の高値から8月上旬にかけて約35%急落しました。これで盛り上がりが終わったかと思いきや、今度は9月7日にアップルの新製品発表会で、iPhone向けアプリ「スーパーマリオラン」が12月から配信されるというサプライズ発表がありました。任天堂がようやくゲームを代表する自社キャラクターマリオをスマートフォンゲームとして投入することが株式市場で好感され、日本時間の翌日8日から任天堂の株価が再び急騰しました。

しかし一方、マリオの生みの親の一人である任天堂の宮本氏は発表会などにおいて、同アプリの課金方法については、ポケモン GO など一般的なスマートフォンゲームと違い、最初に一定の料金を徴収するものの、その後の定期加入課金や追加アイテム課金を行わないと示唆しました。任天堂の公式サイトによると「ダウンロード及び一部プレイ無料 すべての要素を楽しみいただくには一定の金額をお支払いいただく必要があります。」という告知がありますが、具体的な課金システムの詳細については発表されていない状況です。

「噂で買って事実で売れ」という相場格言を常に意識してきたつもりですが、企業のビジネスモデルや収益を分析するアナリスト出身の自分はどうしても利益の確証を追求してしまいがちです。今後も情熱と冷静の間で「葛藤」しながら、運用力の向上に精進していく所存です。

<本資料に関してご留意いただきたい事項>

■本資料は、あくまで情報提供を目的としたものであり、一部主観及び意見が含まれています。最終的な投資判断は、ご自身の判断でなさるようお願いいたします。また、ファンドマネージャー等の実際の運用等に何ら制限を加えるものではありません。■本資料は、当社が信頼できると判断した情報を基に作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■投資信託の取得の申込みに当たっては、投資信託説明書（交付目論見書）をお渡ししますので必ず内容をご確認のうえ、投資判断はお客様ご自身で行っていただきますようお願いいたします。